

津波後の移住が体重増加や HDL コレステロール値の減少に関連

東日本大震災の津波被災者を対象に、移住に代表される震災関連の精神的、社会経済的問題とアテローム性動脈硬化症のリスク因子の変化との関連を検討した。

2011 年の東北地方太平洋沖地震に伴い発生した津波の被害を受けた一般住民 6,528 例を対象とした。移住群 3,160 例および非移住群 3,368 例に対し、地震から 8 か月後および 18 か月後に身体測定および心理学的・社会経済的調査を実施し、解析した。その結果、性別および年齢で調整後、移住群では非移住群と比べ、体重および胴囲が有意に増加していた（体重：+0.31kg 対 -0.24kg、 $p<0.001$ 、胴囲：+0.58cm 対 +0.05cm、 $p<0.001$ ）。また、移住群では非移住群と比べ、血清 HDL コレステロール値の有意な減少がみられた（-0.65 mg/dL 対 -0.09 mg/dL、 $p=0.009$ ）。さらに、身体活動、精神的健康および社会経済的状態の悪化が、非移住群よりも移住群に高い頻度でみられた（すべて $p<0.001$ ）。

したがって、津波後の移住が被災者の体重増加と HDL コレステロール値の減少に関連し、この変化は災害後の長期にわたる精神的苦痛と社会経済的問題と関連することが示唆された。

出典：British Medical Journal open. 2016; 6(5): e011291